

を語る 1

魚津市(富山県)

魚津市長 澤崎義敬

地域の力で元気にする 蟹気楼のまち・魚津

はじめに

魚津市は、富山県東部に位置する新川地域の中心として発展してきました。その名のごとく「魚のまち」であり、古くから富山湾の良港として漁業が栄え、水揚げ量や魚の種類も豊富な漁場として知られています。地名の由来は、魚堵(おど)や小津(おづ)の名の由来は、魚堵や小津と称したものが、魚の産地ということで魚津に改称され、今日に至ったとされています。

海と山が非常に近く、直線距離わずか30数kmの中に、富山湾深海部(約1200m)から僧ヶ岳や毛勝山など3000m級の北アルプス山頂までが収まり、高低差は4000m近くあります。清流・片貝川の上流20数km地点には万年雪の大雪渓が見られ、周辺には樹齢数百年、幹周り



清流・片貝川の上流部に群生する巨大な洞杉

が最大30mにもなる巨大な「洞杉」が群生しています。山々の豊かな森を源とする雪解け水は大地を潤し、豊かな漁場をはぐくんでいます。魚津の三大奇観、蟹気楼・ホタルイカ・埋没林も、この豊かな自然によってもたらされたものです。

特色ある自然環境や歴史文化、産業・経済など地域の資源を生かしながら、市民・地域・行政が連携した

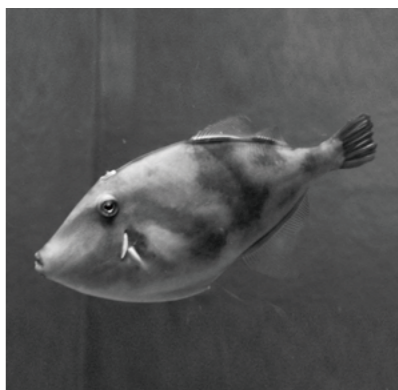
地域特性の見えるまちづくり、「人と自然と文化が共生する元気都市『魚津』」の実現に向け、さまざまな施策を実施しています。

魚のまちルネッサンス

地場産業の活性化が魚津の活力となります。

魚のまちとして栄えてきました。足に加え、漁獲量減少や魚価低迷などにより、漁業は困難な状況にあります。

これを打破し、漁業に活気を取り戻そうと、魚津産「ウマツラハギ」のブランド化に努めています。この魚は、これまで地味なイメージしかありませんでした。魚津港が県内一の漁獲量を誇ることから魚津を代表する魚として「魚津寒ハギ」と命名、さらに体長25cm以上の大物を「魚津寒



魚津市の新しいブランド「魚津寒ハギ」

ハギ如月王」とし、地産地消の推進と全国への魅力発信に向けたプロジェクトを展開しています。淡泊な自身と濃厚な肝がフグにも劣らぬ美味と大評判になっています。

さらに、本年度から3カ年計画で漁業の活性化と再生を図る「魚津の漁業再生(ルネッサンス)プロジェクト推進事業」を始めます。利用されていない荷さばき場を活用し、地引き網漁などの体験型観光や林業・農業を含めた地場産品の直販も検討し、雇用創出や農林漁業の経営基盤強化につなげたいと思っています。また、学術・観光面で魚のまちを支える「魚津水族館」は、大正2年に

創立され平成25年には100周年を迎えます。現在、100周年記念に向けた展示水槽などの改修計画を作成しており、富山湾を代表する水生生物の研究・観光拠点にしたいと考えています。水族館が魚津にあることの特長を生かし、市民に満足してもらえよう「出前水槽」などのアウトリーチ活動も積極的に実施しています。

歴史文化を市民の誇りに

平成21年のNHK大河ドラマ「天地人」の放映により、上杉軍と織田軍の攻防「魚津城の戦い」が注目を集め、全国から多くのお客さまに訪れていただきました。

魚津城の跡地は現在大町小学校となっており、往時をしのぶものや観光環境が十分整っているといえませんが、ここで、訪れる観光客をもてなそうと、地域住民の提案協力で小学校の空き教室を利用した「大町歴史館」がオープンしました。魚津城や地域の歴史を紹介する資料が展示され、住民自らが案



「魚津城の戦い」を紹介する「大町歴史館」

内役を務めるなど、「人の力」地域の力が発揮されました。埋もれていた歴史を活用することが地域の活性化につながり、郷土の歴史への誇りや愛着を生むきっかけとなりました。魚津城跡のほかにも、越中三天山城の「松倉城」や、大正デモクラシーのきっかけとなった米騒動発祥の地にある「旧十二銀行跡と米倉」など、誇るべき史跡が数多くあります。本年度から3カ年計画で実施する「歴史と文化が薫るまちづくり事業」では、地域に分散している歴史・文化資源をつなぎ合わせてソフト・ハード面を充実させ、宿泊と連携した観光プランを提案し、魅力ある散策ルートの設定などを進めます。そのためにも、市民が郷土の歴史に理解を深め、市民が主体となって「魚津の歴史と文化と人」を広く全国に発信したいと考えています。

地域の力を魚津の元気に

私は市長就任以来、「地域の活性化こそが、市全体の活性化につながる」との信念を持ってきました。魚津の「元気」の源は、市民一人一人がふるさとを誇りに思い、地域が一体となってまちづくりに取り組み熱意です。地域振興に向け、住民が連携

できるよう「地域振興会」の設置を推奨しています。

さらに、職員自らの市民協働への意識改革も求めています。若手職員によるワーキンググループは、地域や公民館の活動に参加し、自主的な取り組みを行っています。また、平成21年に結成された職員15名による「地域資源を生かしたまちづくりプロジェクトチーム」は、魚津の魅

力を引き出す施策事業の提案を進めています。

地域と行政がそれぞれのできないところを補い合う協働社会づくり、そして、市民と地域が中心となり、豊かな魚津の資源を地域特性や強みとして生かす「地域特性の見える地域連帯社会」の実現を目指し、これからも全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 200.63km²
- ◆ 人口 4万5562人
- ◆ 世帯数 1万6282世帯

〔将来都市像〕人と自然と文化が共生する元気都市。魚津。

〔まちの特徴〕蟹気楼の見える街、米騒動発祥の地、カニかき漁発祥の地
〔特産品〕加積りんご、西布施ぶどう、下野方なし、新川大根、かのこゆり、魚津寒ハギ、ベニズワイガニ、ゲンゲ、ホタルイカ、魚津漆器、地酒「北洋」

〔観光〕洞杉、魚津埋没林博物館、魚



魚津市長 澤崎義敬



津水族館、魚津歴史民俗博物館、蟹気楼展望地、海の駅蟹気楼、ミラージュランド、恋人の聖地(有磯海SA)、片貝山ノ守キャンプ場、魚津城跡、松倉城跡と松倉城墓群、旧十二銀行跡と米倉
〔イベント〕魚津しんきろうマラソン、戦国のろし祭り、じゃんこい魚津まつり、全日本大学女子野球選手権大会、魚津産業フェア〇〇(まるまる)魚津、イルミラージュUOZU

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた

はじめに

大田区をよくご存じでない方も、羽田空港と田園調布のあるまちといえは、お分りになるかと思えます。東京都の東南部にあり、東は東京湾に面し、西と南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に隣接しています。また、本区は西北部の丘陵地帯と東南部の低地に二分されています。丘陵地帯には田園調布・雪谷・久が原などの比較的緑の多い住宅街、低地には住宅や工場・商店が密集する商業・工業地域が形成され、東京の縮図ともいえる町並みとなっています。

区政の動向について簡単に述べますと、昭和57年に策定した基本構想を、区長就任後、社会経済状況の変化をかんがみ、平成20年10月に改めました。20年後の将来像を「地

域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」と掲げました。さらに平成21年3月には基本計画を策定、「地域力」「国際都市」をキーワードに、計画を着実に推進すべく努めております。

中小企業のまちおおた

大田区は工業のまちです。ピーク時の約9000事業所から減少しているものの、事業所数4351(平成20年工業統計調査速報値)は東京都一を誇ります。その8割は従業員数10人未満の事業所で、機械金属加工分野に特化した高度な技術や優秀な金型などの製品は、日本の産業を支え続けています。紙幣計算機の中でお札を数えるために必要な真空ポンプ、自動車で使われている特殊油圧シリンダーなどの圧倒的なシェアを持つ独自の製品や、丸い1枚の

金属板からロケットの先端部を精密に成形する絞り加工技術がその例です。世界に誇るものづくりを展開しているオンリーワン企業が数多いのも特徴です。

本区では、新製品・新技術開発、人材育成、ビジネスサポートなどの支援事業、受・発注相談、加工技術展示商談会、国内外の見本市への出展支援などの取引促進支援、工場アパート、創業支援施設などの運営や融資あっせんなど、総合的な中小企業支援を行っています。昨今の経済状況を踏まえ、新たに「ものづくり経営革新緊急支援事業」を平成21年度から実施しております。これは、自社における課題解決、業務改善や新事業展開を図るための経営革新計画を策定しようとするものづくり企業に対し、中小企

地域力を生かしたまちづくり

地域は、区民一人一人によって支えられています。人やまちへの思いやりの心と行動力が、「地域力」として発揮され、人と地球に優しいまちを創造していく、これが今後のまちづくりのあるべき姿と考えます。本

区には、18の特別出張所があります。ここを地域力の拠点として、自治会・町会、事業者、NPOなどの区民活動団体と協働し、防犯・防災、高齢者・子育てなどの活動をしています。区民に最も身近な自治体として、地域に応じた施策を展開することが望ましいと考えますが、そのためには、18色の地域力が絶えず輝いていることが不可欠です。本区では、平成21年度から「地域力応援基金助成事業」を開始し、福祉・環境・まちづくりなどの分野で、公益性が高く、広く社会貢献につながる活動に助成をしております。3種類の助成

多くの応募がありました。今後、少子・高齢化が進みますが、子どもと高齢者は活動の場が地域中心であることから、区民活動団体の役割は極めて重要になってくるものと考えます。

「国際都市おおた」を目指して

本区のお勧めスポットの一つは温泉です。東京23区で最も温泉施設が多く、メタケイ酸や重曹を含んだ「黒湯」は、すべすべした肌触りと特有の香りが特徴です。食では、元祖「羽根付きギョーザ」、60軒余りのノリ問屋の干しノリ、池上本門寺土産のくずもち、安価で活気あふれたおびたらしい数の蒲田の飲食店。さらに、洗足池、馬込文士村、田園調布古墳群などの史跡や文化財。こうしたまちに、国際化の波が押し寄せてきます。



地域の安全・安心は、みんなで守ります 地域のパトロール隊

本年10月、羽田空港の第4滑走路が供用開始となり、昼間の発着容量が年30万3000回から40万7000回へと増加し、国際便も格段に増えます。空港を基点として、多様な文化圏の人々との交流や物流の活発化が予想され、商業や観光産業などへの波及効果も大きいものと考えます。約53haの

空港跡地利用、空港までの交通アクセス、航空機騒音などの課題もありますが、まちづくりの絶好の機会ととらえています。本年を「国際化元年」と位置付け、「国際都市おおた」として世界に羽ばたくためにさまざまな取り組みをしてまいります。大きく変わろうとしている本区にぜひ注目ください。



本年の10月には沖合に4本目の滑走路が供用開始される羽田空港



総合的に中小企業を支援する拠点施設 大田区産業プラザ

プロフィール

- ◆ 面積 59.46 km²
- ◆ 人口 67万4527人
- ◆ 世帯数 34万4808世帯

〔将来都市像〕 地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市をおおた

〔まちの特徴〕 東京湾、多摩川に隣接し、蒲田、大森の繁華街から田園調布などの住宅街、町工場(製造業)、商店街や羽田空港のある東京都の縮図ともいえる多様なまち

〔特産品〕 精密金属加工部品類、ノリ加工品、シクラメン、羽根付きギョーザ



大田区長 松原忠義



〔イベント〕 OTAふれあいフェスタ、平和都市宣言記念事業「花火の祭典」、おおた工業フェア、おおた商い・観光展、春宵の響き

〔観光〕 池上本門寺、洗足池、馬込文士村、羽田空港、東京港野鳥公園、多摩川台古墳群、池上梅園、大森海苔のふるさと館、桜坂

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

美濃焼と複合的産業で 活力あるまちへ

はじめに

土岐市は、岐阜県の東南部に位置し、名古屋からは40km圏にあり、鉄道で名古屋駅まで約40分の距離にあります。

地域の約7割を丘陵地が占めており、中央部の丘陵地は、陶土採掘や窯業用燃料として樹木を伐採したため、はげ山と化しています。したが、その後昭和30年代から治山事業が続けられ、現在は緑豊かな丘陵が取り戻されています。

東濃地域は、良質な陶磁器用粘土が豊富なことから、1300年以上の歴史を持つ、古くからの焼き物の産地として発展してきました。美濃焼は、7世紀初頭の須恵器の生産に始まり、16世紀の安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、織部、志野などの自由奔放な

作陶により、世界的に見ても素晴らしい茶陶・高級食器が生み出されています。17世紀以降は日用食器の生産が主体となり、明治以降は量産化が進み、現在に見られる本市の基幹産業である陶磁器産業の基盤が形成されました。

昭和30年の国鉄中央本線の開通、昭和27年の国道19号の開通により、中部圏の中核都市である名古屋市の結び付きが深まり、今日の都市としての発展の基礎が築かれました。

昭和30年2月には、町村合併促進法に基づき8カ町村が合併して「土岐市」が誕生しました。

平成14年7月からは隣接する多治見市、瑞浪市、笠原町との合併に関し合併協議会を設置し協議を行ってきましたが、平成16年1月の住民意向調査の結果を受けて、

単独市としての道を選択し、現在に至っています。

陶磁器産業の振興と 新産業の育成

陶磁器産業は本市の基幹産業として栄え、高度な大量生産技術を基盤として国内はもとより世界各国でシェアを拡大してきましたが、近年は急速な円高により国際競争力を失うとともに、中国製品をはじめとする安価な海外製品の輸入増加により厳しい経営状況が続いています。さらに、後継者不足による技術の伝承問題も深刻となっています。そのため、市長就任後美濃焼振興室を独立させ、陶磁器産業振興のための調査研究や販売促進活動、新たな市場開拓に対する取り組みを支援しています。個性化する消費者ニーズに対応する



商業卸団地内での陶器祭り「土岐美濃焼まつり」

の海水から石油250本分のエネルギーを取り出すための研究を行っています。昨今話題になっています地球環境に優しいエネルギーであり、26年後の実用化を目指して、研究者の皆さんが日夜研究に励んでいらっしゃいます。

中心市街地の整備

本市が今、力を込めて進めている事業の一つとして、中心市街地の整備があります。中心市街地の整備は、市の玄関口・まちのイメージを形成する顔の整備という意義とともに、既成市街地の再生という側面からも、重要な政策課題といえます。また、駅周辺は通勤通学や外出に大変便利です。居住地としての魅力が高い場所です。さらに、商業施設や交通拠点が徒歩圏内に集積する中心市街地は、高齢化が進む中において、高齢者の日常生活を支えるのに適した場所でもあります。こうした役割を十分に発揮するためには、街路整備などの基盤整備を進めるとともに、駅利用者の利便性の向上や居住地としての魅力づくりなどを進めていく必要があります。そのための起爆剤として、現在土岐市駅前西

側の道路の整備に着手しています。

所信表明に掲げました「いつまでも住み続けたいと思う街」を実現するためには、さまざまな事業を實行しなければならず、長期的な財源確保が急務であると考えております。地方交付税の削減という厳しい状況下、複合的な産業構造を目指すことによる税収増を目指すとともに、一つ一つの事業を着実に遂行していくことが実現につながるものと確信しております。



野焼きと花火のコラボレーション「土岐市織部まつり」



年間430万人の人々が訪れる「土岐プレミアム・アウトレット」

設が、それぞれ進出してこられました。なお、「土岐プレミアム・アウトレット」には、年間約430万人の人々が近隣各県から訪れており、この一部の人々でも市内に誘客できないか模索してきましたが、成果は得られませんでした。こういった状況を打破するために、近々「土岐プラズマ・リサーチパーク」内に市が土地を購入し、地元経済界に管理運営をお任せする事業を始める予定です。

また、未来のエネルギーといわれる核融合エネルギーの科学研究所も本市にあり、ポリタンク1本

プロフィール

- ◆ 面積 116.16 km²
- ◆ 人口 6万2769人
- ◆ 世帯数 2万3060世帯

〔将来都市像〕みんなで創る 快適・交流都市

〔まちの特徴〕土岐川流域および支流の肥田川、妻木川流域の平たん部に開け、中央丘陵を取り巻くように形成

〔特産品〕美濃焼(陶磁器製品全般)



土岐市長 大野信彦



〔観光〕織部の里公園、土岐三國山県立自然公園、バーデンパークSOGI、柿野温泉、山神温泉
〔イベント〕土岐美濃焼まつり、土岐市織部まつり、八幡神社例祭(流鏑馬)、美濃焼伝統工芸品まつり、織部の日記念事業

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

河内音頭のふるさとを みんなの力で元気に！

地域力で未来を拓くまち

八尾市は、豊かな伝統的文化と美しい自然環境に恵まれた都市であると同時に、大阪市に近接する利便性の高さを生かした中小企業の盛んな都市として発展してきました。

市内の住民自治活動やテーマ型の市民活動の高まりにより、行政と市民との協働は進みつつあります。平成20年度には、市制60周年という節目の年を記念して、「地域力で未来を拓くまち」をコンセプトに、市民、行政、NPOなどの多様な主体が連携して、記念誌の発行や、YAO市民博などの記念事業を実施しました。

河内音頭のふるさと・八尾

本市の伝統的な文化を代表するのが「河内音頭」です。本市が発祥

の地といわれる河内音頭は大阪を代表する盆踊り音頭です。昭和30年代以降は、伝統的な音頭にエレキギターやシンセサイザーが加わり、ビートのきいたリズム音楽の影響もあり、音楽性豊かな語り物芸として成長、活躍の場を広げるようになりました。

夏は、市内各所に櫓が立ち、幾重にも広がる踊りの輪へと人々を誘います。毎年8月下旬に盛大に開催される「八尾河内音頭まつり」は夏の風物詩です。大パレードや大盆踊り大会などが行われ、河内音頭一色の祭りは多くの市民でにぎわいます。

豊かな歴史遺産のまち・八尾

市の東部にある高安山山麓は、地元で「やまんねき」と呼ばれ、古くから人々が暮らす里山であり、歴史遺産の宝庫です。中でも、本

市、東大阪市、柏原市の3市を中心とする中河内地域で最大の前方後円墳の心合寺山古墳や、200基以上の横穴式石室墳が集中する「高安千塚」は全国的にも知られています。

また、聖徳太子ゆかりの寺として有名な大聖勝軍寺や、江戸時代の古い町屋の面影が残る久宝寺内町、平成21年5月に復元整備が完成しオープンした、江戸時代の河内地方の典型的な豪農家の姿を残す「安中新田会所跡旧植田家住宅」など、まちの中にも、多くの歴史遺産が保全され、市民に親しまれています。

玉串川の桜

春の玉串川は有名な桜の名所です。旧大和川本流の一つで、にぎやかな市街地の中を縦断していることから、身近な憩いの水辺とし



河内音頭で幾重にも広がる踊りの輪

近鉄河内山本駅を挟んで南北約5kmの区間に約1000本の桜並木が続いています。

この桜は、昭和40年に玉串川沿いの町会の人たちが協力して植えたのが始まりで、その後、ほかの町会も続き、それらが大きく成長したものです。春の開花時の景観、特に水面に映える桜は素晴らしく、大阪みどりの百選にも選ばれ、平成21年、大阪ミュージアム登録物にも認定されています。

ものづくりのまち・八尾

本市は、中小企業を中心に、高

度な技術力と製品開発力を誇る「ものづくりのまち」でもあります。全国トップシェアの出荷額で伝統ある歯ブラシ生産をはじめ、金属製品や電子機器など最先端技術に至るまで、匠の技が光ります。

また、ものづくりに対する啓発や教育にも力を入れています。平成16年には、若年層のものづくりに対する興味を喚起し、ものづくりに携わりたいと考える人材を市および経済団体、地元企業、教育現場が連携して育成し、その人材を市内中小製造業への雇用につなげるための「ものづくりのまち・八尾」担い手育成計画が策定され

ました。同年6月21日には地域再生計画として、内閣総理大臣認定を受けています。平成17年に開催された愛知万博では、市内のメーカーなどにより製造された「河内音頭ロボット」がステージに登場し、「ものづくりのまち・八尾」をアピールしました。

第5次総合計画の策定に向けて

現在、本市では、市の新しい都市像を探求し、市民と共に、平成32年度を目標年次とした、新たな第5次総合計画の策定に取り組んでいます。第5次総合計画では、地域が目指しているまちづくりの方向性、地域・市が担う役割を明確にし、総合計画がより地域に根差したまちづくりを進めるための指針となるよう「地域別計画」を作成します。また、この計画を進める仕組みとして、地域住民主体の取り組みへの予算配分の仕組みなどを検討しています。

平成20年度には、地域でのまちづくりのサポーターとして、地域情報の収集・発信を行い、地域とのネットワークを築く「コミュニティ推進スタッフ」を本庁および市



絵や歌を書き添えた絵灯籠が並び、大聖勝軍寺万灯会

プロフィール

- ◆ 面積 41・7km²
- ◆ 人口 26万5658人
- ◆ 世帯数 11万3768世帯

〔将来都市像〕一人ひとりの夢と元気が未来をつむぐ都市・八尾

〔まちの特徴〕緑豊かな高安・生駒の山々や、心合寺山古墳など数々の史跡を有する、中小企業ものづくりのまち



八尾市長 田中誠太



〔特産品〕河内木綿、枝豆、若ゴボウ、葉ポタンや切り花など花卉・花木類、歯ブラシ
〔観光〕河内音頭、玉串川の桜並木、心合寺山古墳、久宝寺内町、安中新田会所跡旧植田家住宅、大聖勝軍寺
〔イベント〕八尾河内音頭まつり、お速夜市、大聖勝軍寺万灯会、八尾天満宮八日戎、常光寺大般若会、八尾市産業博



市民と直接意見を交わす「八尾市の未来を語るタウンミーティング」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「対話」「調和」「人の輪」による やさしさ溢れるふるさとづくり

はじめに

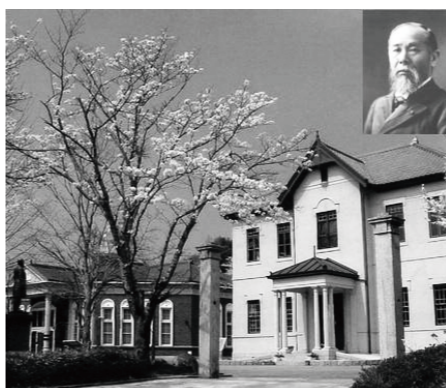
光市は、平成16年10月に旧光市と旧熊毛郡大和町の合併により誕生しました。

本市は、山口県の東南部の瀬戸内海沿岸に位置し、白砂青松の「室積・虹ヶ浜海岸」、自然や歴史の宝庫で幽玄な「石城山」、水鳥の楽園となっている母なる川「島田川」など、豊かな自然環境を有しています。同時に、薬品、鉄鋼などの世界的な企業が立地した工業地帯も併せ持つ、都市と自然がバランスよく調和した住みよいまちです。

また、初代内閣総理大臣伊藤博文公の生誕の歴史をはじめ、長大な列石の遺跡である石城山神籠石や北前船の寄港地の面影を残す室積海商通り、室町時代より伝わる島田人形浄瑠璃芝居など、多彩な

歴史と文化に彩られたまちでもあります。

さらに、陸上競技やセーリング競技などのスポーツも盛んで、アテネ五輪マラソン代表の国近友昭さんやセーリング競技代表の見城元一さんなど、数々のアスリートが本市から世界に羽ばたいています。平成21年暮れの全国中学校駅伝大会女子の部では、本市の大和中学校(山口県代表)が2位、浅江中学



旧伊藤博文邸、生家、資料館を有する伊藤公記念公園

校(開催地枠)が3位に入賞するという快挙を達成しました。セーリング競技でも、全国高校総体や国体などで本市選手の活躍が続いています。輝かしい伝統は着実に受け継がれており、平成23年10月に開催される第66回国民体育大会「おいでませ! 山口国体」での躍進を大いに期待しているところです。

総合計画と マニフェストの融合

本市では、合併後のまちづくりの指針として、平成19年3月に総合計画を策定しました。

この計画では「共創と協働で育む まちづくり」を基本理念に、市の将来像として「人と自然がきらめく 生活創造都市」を掲げています。すべての市民が主役となり、支え合うことにより、誰もが幸せ

を実感でき、愛着と誇りを持てるふるさとづくりを目指しています。

私は、こうした市民の英知を結集した総合計画の継承に加え、「公平・公正」「やさしさ」「対話」「調和」「人の輪」の3つの「わ」を市政運営のキーワードとして、誕生と長寿を祝うまちづくりを目指す「人生幸せ実感プログラム」、地域と産業が潤うまちづくりを目指す「元氣なまち実感プログラム」、安らぎと安心のまちづくりを目指す「安全・安心実感プログラム」の「3つの生活実感プログラム」を推進することを市民の皆さまにお約束し、平成20年11月に市長に就任致しました。

当時を振り返りますと、1000年に一度と言われる世界的な経済金融危機や政治への不信、所得や雇用の格差、悪質な犯罪の増加など社会情勢は混迷を極めていました。市政においても、財政の健全化や市民が安心できる地域医療の確保など多くの課題が山積し、まさに内憂外患の状況でした。こう

したことから、私は、市民に「やさしさ」が実感できるよう総合計画とマニフェストの融合を図りました。以来、児童の入院医療費の無料化、定員超過が著しい留守家庭児童教室の拡充、地元中小事業者の資金調達の利子補給制度の創設など、生活者に視点を当てた質の高い行政サービスの提供に全力を尽くしてまいりました。

ところで、私は常々、本市の大きな特性は「ひかり」という言葉の響きと温暖な気候、風土にあると考えています。このため、その名のごとく、光が有する無限の可能性を活用し、地球温暖化対策にも貢献できる施策として、県内トップレベルの助成制度の創設による、



地域医療の在り方をテーマとした市民対話集会

各家庭への太陽光発電システムの普及や、公共施設への太陽光発電パネルの設置など、太陽光の利用促進に取り組んでいます。

さらに、こうした施策や事業を着実に進めるため、従来の発想や仕組みを改めて、最小の経費で最大の効果を挙げることのできる市政の確立、徹底した市民志向、成果志向に立ったサービスの展開など、市役所から「株式会社光市」への転換を図り、市民が等しく得られる「利潤」、すなわち「住民福祉の向上」を求め続けてきたところです。

「対話」と「やさしさ」を 基幹とするまちづくり

私は、まちづくりの原点は「対話」であると考えています。

本年度は、本市が有する2つの公立病院を中心とした地域医療の在り方をテーマに市民対話集会を開催し、市民の生の声をお伺いしたほか、多くの市民や市議会などと可能な限り対話を重ねてまいりました。

さらに、すべての市職員と一人一人対話を行うとともに、市政の抱える課題の解決方策など職員自らが提案・実施することで市民

サービスの向上と職員の政策形成能力に資するため、「職員☆夢プロジェクト」を創設しました。こうした対話を積み重ねて得られた信頼関係は、本市が明日に向かってさらに飛躍していくための大きな財産であり、職員からの提言の幾つかは具体化に向けて動き始めるなど、成果は少しずつ実を結び始めています。

今後も、「対話」から生まれる「信頼」、さらに「信頼」から生まれる「人の輪」によって、地域に「調和」を導き、真に市民が「やさしさ」を実感できるまちの実現に全力を尽くしてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 91・94km²
- ◆ 人口 5万4470人
- ◆ 世帯数 2万2644世帯

- 〔将来都市像〕人と自然がきらめく生活創造都市
- 〔まちの特徴〕豊かな自然環境に恵まれる一方、周南工業地帯の一翼を担う都市と自然が調和した住みよいまち
- 〔市町村合併〕平成16年10月4日 旧光市、旧熊毛郡大和町による新設合併
- 〔特産品〕ハモ、いりこ、つんこ(でびらカレイ)、梅の加工品、ひかり冠



光市長 市川 熙



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。